

大分石油株式会社

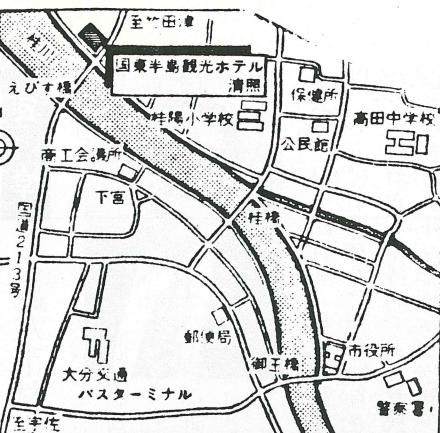
長岡 恵氏

今回辰巳会九州支部懇談の開催された国東半島観光ホテル「清照」

の新館は長岡恵氏の経営に依るもの、そのオーベンの翌日であつたが、その調度品も全部新品であつただけに辰巳会員の欣喜雀躍振りは御想像に委せ度い。

戦後の十年間は混乱と復興の年代だつた。中でも、昭和二十四年

は、激しいインフレ収束のための安定策、いわゆるドックラインの明示や一ドル三百六十円の单一為替の設定など、戦後の日本経済の



一つの転換期だつた。

この年の十一月二十八日大分石油株は誕生した。創設者永岡社長は郷土大分での事業が悲願であり、また、同氏の石油販売のルーツは戦前にさかのばらねばならない。

「ルーツは戦前の朝鮮時代」に永岡氏は明治二十五年二月二十日、現在の豊後高田市玉津の資産家に生れた。十五才の時に家業は行き詰まり、朝鮮の釜山で海産物を営んでいた兄に呼ばれ單身海を渡つた。朝鮮時代には鈴木商店に入り

沢村亮一支店長の下に商売の鉄則をみつかりた、き込まれた青春時代であった。昭和一年鈴木商店解散後之を機会に仲間と共に炭礦経営を二十五才の時始めたが折柄の反日の余波でわずか三年で廃業、そして眼を付けたのが灯油である。

昭和五年辰巳鉱油を設立、二十八才で会社経営を始めた。親の七光りを受けた二代目社長ではなかつた。無から始めた努力と蓄積の成果であった。

石油販売は小倉石油から朝鮮、

満州、北支の独占販売権を得てのスタートだつた。が、販売拡張はシェルやモービルなど外国製品の支配下に割り込む、血と汗の連続だつた。

馬の背に灯油カンを乗せ、半島のあちこちを各戸ごとに売り歩く人が続いた。この時培れた商魂とは郷土大分での事業が悲願であり、しかし、人の和と運に恵まれ、し

だいに軌道に乗つた。旧知の東亞また、同氏の石油販売のルーツは戦前にさかのばらねばならない。

「ルーツは戦前の朝鮮時代」に永岡氏は明治二十五年二月二十日、現在の豊後高田市玉津の資産家に生れた。十五才の時に家業は行き詰まり、朝鮮の釜山で海産物を営んでいた兄に呼ばれ單身海を渡つた。朝鮮時代には鈴木商店に入り

沢村亮一支店長の下に商売の鉄則をみつかりた、き込まれた青春時代であった。昭和一年鈴木商店解散後之を機会に仲間と共に炭礦経営を二十五才の時始めたが折柄の反日の余波でわずか三年で廃業、そして眼を付けたのが灯油である。

昭和五年辰巳鉱油を設立、二十八才で会社経営を始めた。親の七光りを受けた二代目社長ではなかつた。無から始めた努力と蓄積の成果であった。

石油販売は小倉石油から朝鮮、

朝鮮海上産油販売組合理事長などの公職にもつき、幅広く活躍してきました。

無からの再出発

敗戦はすべてを無に帰した。昭和二十年六月召集され、敗戦とともにすぐ家族と帰国した。昭和二年以後築いた資産、当時の金額で千五百万円ほどを残したまゝの帰国だつた。

「樹木に例えれば枝葉に過ぎない、いかに繁茂しても、根が悪くなれば枯れてしまう。日本人である私は、根を日本に、それも郷土大分にこそ築くべきだと永岡氏はつくづく感じたと言う。永岡氏の事業を前後編に分ければ、前編は

朝鮮時代で、後編のはじまりは辰巳物産戸畠工場からだつた。これに接棒の販売から再出発したが資金面の苦労は絶えなかつた。それこそ東奔西走の毎日だつたという。

しかし、人の和と運に恵まれ、し

だいに軌道に乗つた。旧知の東亞燃料中原社長に偶然会い、石油販売を勧められたのはこんな時だつた。岩礁にグリースを売りこむことから、念願の石油販売の道に帰つた。

重油の売り込みからスタート

大分石油株は昭和石油と特約を結び、本社を大分に、支店を豊後に設けた。昭和二十四年の秋スタッフした。同業者は大分に四十七・八店ほどあつた。石油販売といえど、今はガソリンスタンドを連想するが、當時、県下の自動車台数は三千台に満たず、揮発油より重油が主だつた。しかも石油は統制下にあり、キップ販売だつた。

重油の得意先は、漁船やノリ業者たばこ製造者などで、キップを持っていた漁業組合、農業組合へセールスに歩き廻るのが日課になつた。永岡社長は「私は旧知の豊後高田や各地の機帆船組合への重油

ロセス（前工程）を今夏、湿式プロセス（後工程）を年内にそれぞれ完成、来年から年間処理量四五百トン規模で本格操業の予定。処理技術は明らかにしていないが、乾式プロセスで触媒担体を破砕し、付着しているサルファ、カーボン、水分などを焼却除去、リブデンを抽出する。触媒四千五百トンを処理して回収できる。

モリブデンの回収技術

設備着工脱硫触媒から

【神戸】国内で二一%のシェアを持つモリブデンの最大手、太陽鉱工（神戸市生田区京町七二、社長鈴木治雄氏）は、直接脱硫設備の使用済み触媒から高純度のモリブデンを回収する技術を確立、同

事業を前後編に分ければ、前編は

「モリブデンの回収技術

」

ロセス（前工程）を今夏、湿式プロセス（後工程）を年内にそれぞれ完成、来年から年間処理量四五百トン規模で本格操業の予定。処理技術は明らかにしていないが、乾式プロセスで触媒担体を破砕し、付着しているサルファ、カーボン、水分などを焼却除去、リブデンを抽出する。触媒四千五百トンを処理して回収できる。

この実用化は、わが国でこれが始められ、モリブデンはこのところ化学工業などに需要が増大しているに敗戦を乗り越え開化に邁進した。モリブデンの国際相場急騰で回収技術に採算のメドが立ち、企業化に踏み切つたもの。回収技術

の実用化は、わが国でこれが始められ、モリブデンはこのところ化学工業などに需要が増大しているに敗戦を乗り越え開化に邁進した。モリブデンの国際相場急騰で回収技術に採算のメドが立ち、企

業化に踏み切つたもの。回収技術

の実用化は、わが国でこれが始められ、モリブデンはこのところ化学

工業などに需要が増大しているに敗戦を乗り越え開化に邁進した。モリブデンの国際相場急騰で回収技術に採算のメドが立ち、企

業化に踏み切つたもの。回収技術

の実用化は、わが国でこれが始められ、モリブデンはこのところ化学

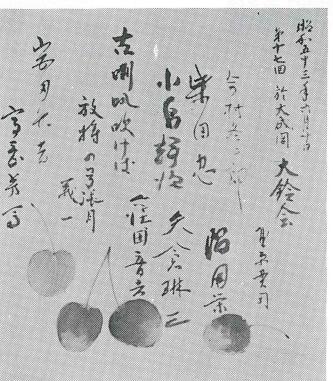
工業などに需要が増大しているに敗戦を乗り越え開化に邁進した。モリブ

ンス生産で、これに使われるモリ
ブデン酸アンモニウムは、一説に
よると年間二千トンともいわれる。
触媒の耐用年数は、半年から一年
とされ、これまで回収、再利用技
術が確立されていなかつたため、
すべて使い捨てで、その廃棄処理
が問題にさえなつていた。

同社の技術は日本鉱業の協力を
得ており、当初両社で回収専業の
新会社設立、企業化の計画を進め
ていたが、バナジウムの回収を目
的とした日本鉱業側のねらいがバ
ナジウム需要の停滞で崩れ、モリ
ブデン回収を目的とした太陽鉱工
の単独企業化となつた。

同社はすでに日本鉱業をはじめ、
三菱石油、出光興産など国内の石
油精製メーカーと使用済み触媒の
引き取り契約を結んでいたが、同
装置の運転が軌道に乗れば、他の
製油メーカーにも呼びかけ、でき
るだけ資源の回収、再利用を広範
に行えるようにしたい、として
いる。

(53・5・23・日刊工業)



俳句

大鈴会寄せ書

平家蟹

(自選)

柳田義一

茶柱立つ緩るりと廻わる初霞
銀匙が青き湾つくるメロンの皿
教室に聴くもの睡るもの花曇り
水中花見えすく虚は潔し

曲水離なれば舟人を先きにする

狂言師型を崩さず椿踏む

船靈の燭消しに来る平家蟹

哀悼録

氏名	物故年月日	享年	夫人又は嗣子	自宅住所
岩崎松喜	52. 1	77		661 尼崎市立花町2-14-1
具島邦彦	2. 1	83		838 甘木市恵比須町1935
三溝又三	9. 23	87		180 東京都新宿区内藤町1
井上一郎	12. 8	87	チヨ 武二郎	473 豊田市御幸本町2-52
堀川嘉八	53. 1. 5			563 池田市室町五番町1078
大沢紳吾	1. 6	88	美栄	530 大阪市北区曾根崎新地2-1-3
長谷川滋	1. 18	75		462 名古屋市北区西滋賀町4-12
多賀二夫	2. 5	91	親信	701 岡山県邑久町虫明1118
梅木作造	2. 9	78	てい	658 神戸市東灘区御影町本町3-4
宮尾清司	2. 17	77	久枝	913 福井県坂井郡三国町東尋坊
上野新平	3. 13	73	春子	657 神戸市灘区岩屋北町4-5-30
溝口新平	3. 30	91	新次	143 東京都太田区北馬込1-26-8
幸松文太	5. 4	90		154 東京都世田谷区○○2-4-7
藤原勢次	7. 1			662 西宮市平木町18-27
中島富見雄	7. 11			188 保谷市住吉町2-2-20
宮口俊二郎	7. 14			659 芦屋市三条町61
池武猪	7. 19		たつ	655 神戸市垂水区大町3-5-13
小野三郎	7. 28	90	孫聖	664 伊丹市鈴原町2-10

供養塔勘定 昭和52年度決算

(52. 4. 1 ~ 53. 3. 31)

収入の部	金額	支出の部	金額
51年度より繰越		支 出	
本勘定へ預け金	892,232	供養塔管理費	80,000
取入	0	その他	12,700
		計	92,700
		53年度へ繰越	
本勘定預け金	799,532		
計	892,232	計	892,232

辰巳会 昭和52年度決算

(52. 4. 1 ~ 53. 3. 31)

収入の部	金額	支出の部	金額
51年度より繰越		支 出	
現種預金	60,708	大会例会費(3回)	2,532,942
各種預金	1,343,886	たつみ誌27、28号	1,129,000
預金	400,000	米喜寿杯費	426,655
喜寿大杯在庫(127ヶ)	1,881,900	支部経費	820,000
仮払金	136,500	印刷刷費	108,550
供養塔勘定	△ 892,232	通信信費	284,830
計	2,930,762	旅費交通費	5,920
取入		慶弔弔費	10,000
大口広告料	2,000,000	雑費	33,505
小口	472,000	計	5,351,402
計	2,472,000	53年度へ繰越	
贊助金	3,506,672	現種預金	40,546
預金利息	130,457	各種預金	3,539,975
大会例会々費	993,000	預金	400,000
計	4,630,129	喜寿大杯在庫(97ヶ)	1,503,500
		供養塔勘定	△ 799,532
		仮受金	△ 3,000
		計	4,681,489
計	10,032,891	計	10,032,891